



やぐら通信

～ひとみキラキラ豊かな心と体の矢倉っ子～

平和について学ぶこと 平和を祈ること

「こちらの土が盛ってあるところ、塚といいます。ここには家族みんなが一度にとか、誰が誰だかわからないようなかたちでとか、そんなふうにして原子爆弾にやられた方々が眠っておられます。みなさんには家族や親戚があるでしょう。亡くなった後、誰かがお参りしてくださるはずです。でも、ここには親戚や知り合いの誰からも弔ってもらえなくて、さみしい、くやしい思いをされている方々がおられます。できたら、自分なりのお祈りの仕方ですから、手を合わせてあげてください。」

修学旅行、平和記念公園でのこと。ボランティアガイドさんのことばだった。

子どもたちは、ガイドさんのことばを受けて、そして眠っておられるたくさんの方々の思いを受け止めて、それぞれ自分なりの方法で、手を合わせたり、頭を下げたりしていた。平和記念公園での学習は、これまで取り組んできた平和学習の大切な場面だ。これまでは、どちらかといえば間接的な、遠いできごとのような受け止めだったのかもしれない。当日は、どの子も真剣なまなざしで、ガイドさんのことばを一言も漏らすまいと、一生懸命メモを取っていた。

読み物資料や写真など、何かを通して知っていくのも、ものごとを整理してとらえていくときの手立てとして大切な作業である。しかし、現地を訪れ、人と出会い、その人から話を聞いていくこと、やりとりを通して出会っていくことも、よくわかるための手立てとして非常に大切なことである。しかも、今回の修学旅行のように、平和を学び、平和を求めていくことが、自分たちの問題だと自覚できれば、これまで以上にしっかりと向き合い、学んでいくことができる。

どうぞ、子どもたちのこれからを見守り、導いてやってください。みんな、みんな幸せでいられますように支えてやってください。—— 私もこんな願いをもって手を合わせた。